

# 令和7年産 てんたかく栽培こよみ

- 射水市農業技術者協議会
- 射水市 ● J A いみず野
- 富山県高岡農林振興センター
- 高岡地域農業共済センター
- 全農とやま

## 目標収量構成要素

収量構成	目標
10a当たり収量	600kg
m <sup>2</sup> 当たり穂数	500本
一穂粒数	60粒
m <sup>2</sup> 当たり粒数	30,000粒
登熟歩合	85%
玄米千粒重	23.5g

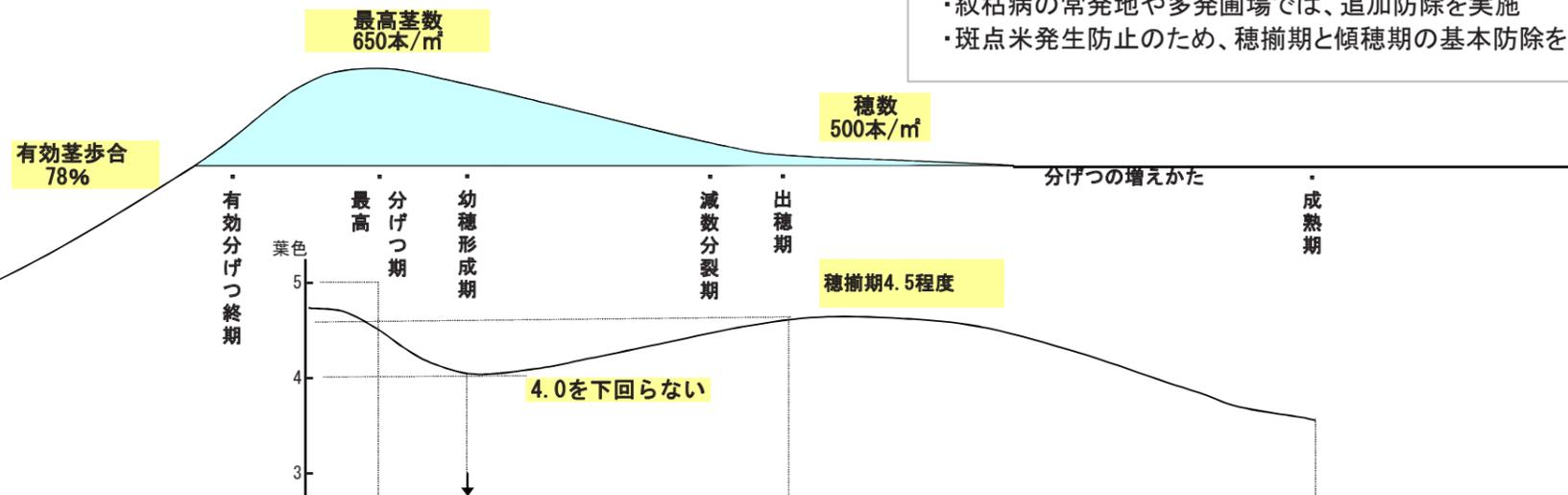
## 収量確保の栽培のポイント ~m<sup>2</sup>当たり粒数30,000粒へ誘導~

- ・ 田植時期の目安は、5月初旬
- ・ 施肥量は、地力に応じて過剰とならないように基準量を遵守
- ・ 植付株数は、坪当たり70株とし、良質の茎を早期に確保
- ・ 幼穂形成期頃の葉色は、4.0を下回らないように間断かん水を徹底
- ・ 紋枯病の常発地や多発圃場では、追加防除を実施
- ・ 斑点米発生防止のため、穂揃期と傾穂期の基本防除を確実に実施

## 「Jコート早生専用」施肥量の目安

前作	減肥	土壌区分	施肥量 (kg/10a)
水稲あと	-	粘質土	30~35
		壤質・砂質土	32~37
大豆あと 野菜あと	水稲あとの 35%減	粘質土	19~22
		壤質・砂質土	21~24
大麦あと	水稲あとの 25%減	粘質土	22~25
		壤質・砂質土	24~27

栽植密度  
70株/坪  
植付本数  
3~4本/株



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	4/10	5/2	6/1 6/8 6/12	6/24 7/15	8/18	

生育期	育苗期	田植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期	登熟期
						~穂ばらみ期	

水管理	やや深水	浅水管理	入水停止→溝掘り 中干し	間断かん水	間断かん水	出穂後20日間は湛水管理	間断かん水
							(落水を急がないように)

栽培管理のポイント	4/10	5/2	6/1	6/8	6/12	6/24	7/15	8/18
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 育苗ハウスは25℃以下になるよう管理する</li> <li>・ 紋枯病を含む育苗箱薬剤を施す</li> <li>・ 播種量は乾籾一箱当たり120g</li> <li>・ 十分に浸種して芽出しを確実にを行う</li> <li>・ ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕</li> <li>・ 畦塗り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田植後は浅水管理として分けつの発生を促す</li> <li>・ 田植後はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 植付本数3~4本、3cmの深さに植える</li> <li>・ 坪当たり70株植え、良質の茎を早く確保する</li> <li>・ 施肥量は基準量を守る</li> <li>・ 田植時期の目安は5月初旬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活着後は浅水管理として分けつの発生を促す</li> <li>・ 田植後はやや深水として活着を早める</li> <li>・ 植付本数3~4本、3cmの深さに植える</li> <li>・ 坪当たり70株植え、良質の茎を早く確保する</li> <li>・ 施肥量は基準量を守る</li> <li>・ 田植時期の目安は5月初旬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田植後1か月を目安に中干しを開始し、根の活力を高め、無駄な茎を抑える</li> <li>・ 田植後1か月を目安に中干しを開始し、根の</li> <li>・ 田植後1か月までに溝掘りを行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スムーズな収穫作業に向けて地固めを行う</li> <li>・ 中干し後は、幼穂形成期まで間断かん水を行い、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼穂形成期の葉色は4.0~4.5に誘導 (4.0を下回らない)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼穂形成期以降は、飽水管理を行う</li> <li>・ 紋枯病の随時防除 (出穂14日前頃)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 穂揃期の葉色を4.5に誘導する</li> <li>・ 基本防除1回目 穂揃期</li> <li>・ 基本防除2回目 傾穂期</li> <li>・ (1回目から10日以上あけない)</li> <li>・ 出穂後20日間は湛水状態を保つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 刈取り予定日の5~7日前まで間断かん水する</li> <li>・ フェーン時は事前に入水する</li> <li>・ 刈り遅れによる胴割米発生防止</li> <li>・ 籾の黄化率85~90%程度で適期に刈取り、</li> <li>・ 適正な乾燥速度と仕上水分14.5~15.0%を厳守し、胴割米や過乾燥米の発生を防止</li> <li>・ 1.9mmのふるいで選別</li> <li>・ 稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い</li> <li>・ ひこばえは結実前に耕起し、漏生株を軽減</li> <li>・ 必ず排水溝を設置する</li> </ul>

苗箱薬剤はブーンレパード箱粒剤  
密苗の場合は、1kg/10aとなるように50~100g/箱で調整

通常の育苗	密苗
1箱当たり50g	1kg/10a (1箱当たり50~100g)

雑草地や畦畔の草刈りを行い斑点米カメムシ類の生息数を減らす